

平成30年度 静岡県言語聴覚士会 講演会 開催

平成30年6月10日（日）に、静岡県男女共同参画センターあざれあ大会議室にて、平成30年度 静岡県言語聴覚士会講演会を実施しました。

9:50～11:50 「症例から学ぶ嚥下造影（VF）と嚥下内視鏡（VE）のみかた」
浜松市リハビリテーション病院 リハビリテーション科 高橋 博達 先生

導入では、急性期・回復期・維持期のリハビリの特性や、回復期リハでの多職種連携・訪問リハの増加といった摂食嚥下障害を扱うリハビリの現状・摂食嚥下に関連する診療報酬に関する情報について教えていただきました。次に、VE/VFの見方の前提として、嚥下に関する器官の構造について、口腔準備期・口腔期・咽頭期に分けて丁寧に解説していただきました。その中で「誤嚥のキーワード」として誤嚥防止機構として喉頭蓋・声帯・仮声帯（室ひだ）が3枚の扉として重要な役割を果たしているが、梨状窩サイズによっても誤嚥のしやすさが変わること・座位とリクライニング位での喉頭の重みによる防御について、教えていただきました。嚥下障害に対する具体的な訓練方法や姿勢管理についても、詳しくご教示いただきました。



VE/VFの見方については、正常例と実際の症例画像（筋緊張性ジストロフィーによる嚥下筋の筋力低下による嚥下障害・食道癌後の廃用性症候群など）を複数御提示いただき、正常例と各症例での特徴・違いを丁寧に解説していただきました。正常例のポイントとしては、食塊が喉頭蓋谷に達してから概ね1秒以内に迅速に嚥下反射が誘発されること・咽頭クリアランスは常に90%以上を保ち、VEでwhite-outが明確に生じること・誤嚥防止機構が良好に機能し、喉頭侵入が、ほとんど生じないこと、嚥下反射誘発によってほとん

どの食塊が食道に流入し、両側または優位側の梨状窩を通過することなどを教えていただき、側面の画像だけでなく正面像についても御提示いただきました。講義の最後には、東日本大震災時の避難所での嚥下食の対応や静岡 JRAT のことも情報提供していただきました。

アンケートの感想

- ・様々な症例を見せていただきながら勉強することができた。
- 写真・動画をたくさん見せていただき、理解が深まった。
- VF画像について、正面画像もあり、わかりやすかった。
- VE・VFの見方を確認できて、よかった。

正常例のVF画像があったことが、理解につながった。

- ・嚥下の動態や誤嚥について、基礎から総復習できた。

嚥下器官の構造について、わかりやすく説明していただいた。

- ・診療報酬・制度・リハビリ全体の話も交えて内容の濃い研修だった。
- ・緊張感を持って臨床に臨めそう。
- ・自分の患者様と照合し、適応を考えながら受講することができた。
実践的な内容だった。
- ・喉頭蓋の重さ・梨状窩サイズの重要性に関する話題が、非常に参考になった。
- ・嚥下時の姿勢について、頸部前屈をかけすぎることの問題点と適切な頸部前屈位としてのスメルポジションの事や横向き嚥下と一側嚥下を組み合わせることが有効な事など、大変参考になった。
- ・浜松市リハビリテーション病院の嚥下チームの話が聞いたことが良かった。
- ・質疑応答の時間を20分くらい取ってほしかった。

14:10～16:10 「発達障害のある子のワーキングメモリ

～その特性と学習への影響と読み書き指導の実際」

広島大学大学院教育学研究科 湯澤 正通 先生

ワーキングメモリは、「情報を覚えながら」「考える」ことができる「脳の作業場＝心の黒板」であること・脳の長期記憶へ情報を蓄えていく「入り口」であること・「シフト」と「抑制」が働いて初めて子どもは学習に参加でき、ワーキングメモリが、「更新機能」を発揮していただけることを教えていただきました。

また、ワーキングメモリは言語的短期記憶・視空間的短期記憶・中央実行系（注意コントロール・認知的な操作）の3つの構成要素が結びついたシステムであり、このシステムを前提として開発されたアセスメント HUCRoW について解説していただきました。HUCRoW では、言語的 STM・言語性 WM・視空間的 STM・視空間性 WM の4つの側面を測定し、支援につなげていくそうです。ワーキングメモリは年齢とともに直線的に発達していくが同年齢であっても大きな個人差があるため、その点を配慮した学習支援が必要になるそうです。

ワーキングメモリ理論に基づいた学習支援方略として、情報の整理・情報の最適化・記憶のサポート・注意のコントロールという4つの支援方法に分類することができるそうです。先生は講義の合間に、近隣の参加者と話し合い、講義内容の小まとめをしながら進めて下さいました。



アンケートの感想

- ・ 漠然としか理解できていなかったワーキングメモリについて、深く知ることができた。
ワーキングメモリは長期記憶の入り口だということが、わかった。
幼児対象のワーキングメモリの話聞くことができ、よかった。
- ・ ワーキングメモリの容量に、そもそも個人差があり、それが学習と直結しているということ、改めて感じた。
- ・ HUCRoW の内容が、興味深かった。
ワーキングメモリアセスメントを活用したい。
WISC では評価できない部分について、考える機会になった。
- ・ 集団・個別ともに生かすことが出来る支援方法を知ることができた。
読み障害がある子どもへの具体的な歌を用いた支援方法を教えていただいた。
- ・ 学習に入るためにシフト・抑制ができる環境作りが大切だと学んだ。
- ・ 授業チェックリストがありがたい。
- ・ 小学校での学習に、いかに多様性が求められているかが、わかった。
- ・ ワーキングメモリの問題から、学習障害の予測・予防が、もっと早期から可能かもしれないことを教えていただいた。
ワーキングメモリと読み書き障害の関連性を理解することができた。
- ・ 成人の訓練でも使っていきたい方略があった。
- ・ 講義途中で話し合いや質問の時間があったことで、項目ごとの振り返り・整理ができ、理解しやすかった。

